

# 令和6年度春 子ども図書館おすすめ本

## ★中高生におすすめの本★

### ★『根っこのこどもたち目をさます』

ヘレン・ディーン・フィッシュ/文 ジビレ・フォン・オルファース/絵 石井桃子/訳  
童話館出版



寒い冬から暖かい春になっていく途中。  
地面の下では、土のお母さんが根っこのこどもたちを起こしてまわります。根っこのこどもたちはあくびをしながら目を覚まし、それぞれの春の仕事にとりかかります。女の子たちは自分の好きな色の布で服を縫い、男の子たちは眠っている虫を起こしたりきれいにしてやったりするのです。そうして地上の木が蕾<sup>つぼみ</sup>を膨らませた頃に、根っこのこどもたちは花や草を手にもって花のこどもたちになるのです。

冬から春へ、そして夏から秋へと移ろう季節の美しい絵本。

### ★『<sup>さくらもり</sup>桜守のはなし』

佐野藤右衛門/作 講談社



皆さんは、桜守を知っていますか。

この本の語り部、植木職人の佐野藤右衛門さんは、桜を守る「桜守」と呼ばれています。

桜守の仕事とは調子の悪い桜を診察したり、新種の桜を見分けたり、接ぎ木が必要な桜の世話をしたり種を蒔いたりする事です。この本ではそんな桜守の仕事と桜の一年を、美しい写真で分かりやすく紹介しています。

桜の季節に一読してみても良いでしょう。

---

★『ののはな通信』

三浦しをん/著 KADOKAWA



昭和時代。「のの」と「はな」は女子高で同じクラスの友達だった。授業中にはクラスメートたちを介してメモを回しあい、それ以外には手紙でやり取りをする位仲が良かった。やがてそれは性別を越えた恋になって愛となるが、しかしある事件がきっかけで二人は別れ、友達として付き合っていくことになるのだった。

少女時代、それから大人になった二人の間で交わされた手紙の数々と時代の移り変わりを描いた切なくも美しい物語。

